

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 西の家)

事業所番号	0670101476		
法人名	有限会社深町コーポレーション		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	山形市深町一丁目9-14		
自己評価作成日	平成25年 7月 29日	開設年月日	平成15年 11月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者を尊重し利用者が安心して暮らせる雰囲気を作り、利用者と共に笑顔のある生活の場所を作って行く事を心掛けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 25年 8月 26日	評価結果決定日	平成 25年 9月 11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所して10年を迎え、併設した小規模多機能が7年目、また今年度は介護付き有料老人ホームがオープンし、緑の木々に囲まれた「はなみずき」の輪が大きくなっています。中廊下で3事業所がつながり利用者は自由に往来ができ、職員も垣根を取り払い協力し合い、利用者の笑顔が見られる安心・安全なケアに取り組んでいます。長期利用者が多く介護度が上がっており、職員は今以上の身体ケア、認知症ケア、医療面における学習を重ね、一人ひとりの資質向上を目指している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念「人と人 気持ちつながるはなみずき みんなの笑顔咲かせます」を職員・利用者と共に考えて作成し、共有し実践につなげようとしている。	新たな理念も3年目となり、五・七・五調の親しみやすい言葉に馴染んで、常に利用者の思いを把握し、話題づくり等に心がけ笑顔に繋がるケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と仲良くする事で、庭周りの剪定を手伝ってくれたり助言など頂戴する機会が増えた。行事を通しておすそ分けをしたり、日常的な交流が以前より増えている。	地域の実情もありなかなか難しい面もあるが、事業所側からは常に情報発信に努めている。日常的には近所の方が野菜の差し入れや庭木の剪定に来てくれるなどの付き合いがあり、ボランティアの訪問も多くなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があった場合対応している。また、町内会長や地域包括支援センターを介して、必要があれば対応可能と話している。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近家族の参加率が増えつつあり、議題も報告だけで終わらないよう工夫するようにしている。意見交換も以前より積極的にできるようになっている。	併設する小規模多機能と合同で2ヶ月に1回開催している。家族等全員に案内を出し参加者も多くなっている。利用者や家族等にとっての身近な話題を取り上げ、意見や要望をもらいサービス等に反映している。またそれぞれ事業所の特性の理解にもなり参加者からの評価を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事だったり、必要があれば直接市役所に行き問い合わせるようにしている。	市担当者とは書類関係や相談・情報提供など、出向いて行き早い解決を図っている。また介護相談員を受け入れ利用者の話し相手になってもらうなど大変喜ばれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	禁止の対象について職員が理解しており一切行っていない。日々利用者の状況に合わせて安全に過ごせるように工夫している。	「ちょっと待って」「大変だー」などつい出してしまう言葉づかいで、利用者が不愉快な思いをしないよう注意し、職員同士常にミーティング等で勉強してケアにあたっている。また居室のベッド回りが物でふさがったりして、危険がないように十分配慮し安心な暮らしを支えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	ニュースや事例を基にして虐待の実態を学ぶようにしており、実際現場でも場面に応じて注意している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人の制度を活用しなければならない人がいたので、関係者と話し合い結びつけている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わだかまりが残らぬよう十分に説明を行い、聞きにくい事も聞き納得した上で契約を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見・要望が出るので、職員へその情報を下し反映させるようにしている。また、次の会議の時に報告するようにしている。	運営推進会議出席時や電話など、また面会時にいつでも気軽に意見等が寄せられている。職員に対する要望等は管理者が文書通達で改善を図ったり、ロールプレイ等で学習しより良いサービスに繋いでいる。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員より意見や要望を聞く機会を設けるよう心がけている。職員も運営に関して、代表者や管理者に協力的である。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件については、できる限りの事は整備している。離職者も少なく、利用者と共に楽しく過ごせるよう目標を持って働けているようである。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力向上の為に、研修を受ける機会を作っている。また、研修に行ったら現場で活用できるよう他職員に伝達している。資格取得についても意欲的に勉強会を設けている。	外部研修は経験年数などに応じて参加し、法人では「全体学習会」を通し、事業所全体を理解するようにしている。また資格取得に向けても意欲的な職員が多く、利用者の重度化にも対応できるようレベルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡協議会があるので、他事業所との情報交換や研修会の企画をしてくれている。なるべく参加するようにしており、サービスの質の向上につなげるようにしている。	グループホーム連絡協議会に加入し、交換研修や他事業所とも交流しており、地域密着型特別養護老人ホームの見学等も出かけている。見聞きすることで自分たちの良い所、欠けている所などの気づきが得られ職員のスキルアップに役立っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を受容し、今までの生活習慣を尊重しながら不安な事や要望を傾聴し安心してもらえるような説明・提案をしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談など、本人の生活状況や家族が困っている事、要望などを傾聴し、不安要素を解決できるような説明・提案をして安心して頂くよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとってより良い環境、距離を保ちながら、どちらにとっても安心して生活できるよう多方面から情報を得ている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活のリズムを確保するため、家事掃除などできる事を一緒に行ってもらい、活動的な生活の流れを作っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心にしながら、ささいな事でも話して頂けるような雰囲気を作り、家族と共に支え合う関係を築くようにしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や定期的な家族との外出、家族の面会、知人の面会などで会う機会があり楽しみにされている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日歌や体操、会話などでレクリエーションを中心に好きな人同士、または皆の関係が良好になるような支援を行うよう心がけている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙や電話などで、やり取りをしたり、入院中もお見舞いに行ったり必要な事柄を家族と相談して行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人とコミュニケーションを図り、本人の話を傾聴して希望・意向を把握するよう努力している。なるべく自分らしく過ごせるよう支援を行っている。	職員は家族等からの話や本人の思いを傾聴し寄り添うよう努めている。職員によって受け止め方が違う時は情報交換を密にして対応している。なかなか思いを伝えられない利用者は表情やしぐさから、また日々変化する思いを理解しながら支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中で若い時の話などをして、その人の人生をできるだけ知る機会を作っている。サービス利用の経過等はスタッフ間で記録に残し共有できるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人が好きな事ができるよう、本人の心身状態に合わせた支援をするようにしている。家事ができる人にはなるべく一緒に手伝って頂くようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族または関係者とコミュニケーションを図り意向を聞き出してそれをスタッフ間で話し合いより良い介護計画を作成している。	ケアプラン作成にあたっては何よりも利用者の言葉を大切にしている。職員は居室担当制で1ヶ月に1回職員会議を開き、それぞれの意見を出し合い、利用者の変化にも柔軟に対応し、プラン作りに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変わった事があれば、記録に残しスタッフ間で共有し、より良いケアが実践できるようにしている。また、介護計画の見直しに活かせるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に近所のスーパーや薬局等に買い物に出かけたり、要望に応じて散歩やドライブを楽しんでいるようである。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望・都合に合わせて通院・受診の支援をしている。こちらで通院・受診した際は結果を家族に報告し次回の打ち合わせや今後の対応を検討している。	受診は利用者の日頃の健康状態をよく知っている職員が主に付き添い、希望に応じて家族等も同行し結果も共有している。内科、歯科の往診や、また服薬支援は看護師と管理者が作ったマニュアルに沿って三重のチェックで誤薬をなくし、日々の健康管理に努めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は気付いた事、変化した事等随時看護師に相談している。必要時は対象者と関わりを持ってもらい支援するようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、家族の方の意向に合わせて早期退院できるよう支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時はもちろんだが、そういった時期になってきたら話し合う機会を設け、事業所としてできる事、できない事を説明し支援に結びつけるようにしている。	最期までおつきあいをするという方針で、入居時や利用者の状況変化に応じて家族等と話し合いを重ねている。要望を確認しながら職員は医療関係者等と連携を図り、方針を統一して希望に沿えるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や個人情報の取り扱いを含めて備えている。応急救護講習を年1回開催している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。地域の方にも参加して頂き手伝ってもらえるような体制作りを考えている。	併設の同法人事業所と合同で消防署指導のもと年2回の避難訓練を計画している。災害時は近隣の住民や家族等に協力依頼をしており、あらゆる場面で想定した備蓄を整えている。	4月から新任した町内会長に災害時への協力依頼はしているが、体制作りまで至っていないので、訓練への参加をはじめ関係機関や地域に、理解と協力をさらに働きかけることに期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った言葉掛けをし、人格を傷つけないような対応を心掛けている。	職員は自分がされていやな事はしないことを常に心がけ、利用者の気持ちを大切に考えたさりげない個別ケアを実施している。声がけを工夫し、出来ることをしてもらって感謝の言葉をかけると習慣化や満足した笑顔に繋がっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望を伺い、それに対して自分で判断できるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や気分に合わせて、個別の対応を取り支援するようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望で毎日の洋服を選んだり、化粧をしたりしている。要望があれば、毛染めも実施し満足してもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付け、日によっては一緒におやつを作っている。味付けの時など楽しそうに会話が弾んでいる。	朝、夕食はユニット毎に、昼食は併設の法人事業所厨房で調理し、旬のものやカロリーに配慮している。利用者はお茶出し、後片付けなどの手伝い参加があり、外食や顔見知りの「通い」の方と一緒に食べたり、好きな場所での自由な食事を楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	何パターンか食事の形態を準備している。その人の機能に合った食事摂取を心掛けており、栄養状態やバランスを考えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人でできる人がほとんどいないので、職員が関わりを持ってケアをしている。口腔ケア講習会も実施しており、歯科衛生士より指導してもらって実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄支援の見直しを行い、一人一人に合わせた対応を心掛けている。自立支援も限界があるので、本人の尊厳・家族の意向を聞き取り入れるようにしている。	時間を見計らって誘導する時も、トイレとはあからさまに言わないようにしている。利用者にとって一番良い方法は何か常に見直しを行い、心と時間に余裕が持てるような排泄支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の献立を考えたり、便秘に良いと言われていた事を実際に取り入れて実施した事で、下剤に頼らなくてもほとんどの利用者が排便確認できるようになった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	重度化してしまっているため、体調の良い時を見計らって小規模多機能型の方の機械浴で入浴できるよう連携を図っている。一般浴で対応できる方に関しては好きなように入ってもらっている。	身体状態に合わせて一般浴や併設の小規模多機能の機械浴を利用している。職員は安全で楽しく入浴してもらえるように工夫し、1対1の会話を交わしながらゆっくりリラックス出来るように実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方によってその日の寝る時間だったり、寝付き方が違うので、寝るまで相手したり、室温を調整したりして気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理から配薬、服薬に至るまでルールを作り、チェックするようにしている。一人一人の薬の用量・用法が記入されている用紙をわかりやすくすぐに見られるように冊子にしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯干し、洗濯物たたみなどできる範囲で日常的に家事支援を行っている。また、ボランティアの方々に来てもらい、出し物を披露してもらいレクリエーションを楽しんでもらっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはドライブに出かけたり、隣のスーパーまで散歩や買い物に出かけたりしている。季節によって外出を兼ねて外食に行ったりして喜んでいる。	近隣にレストラン、スーパー、ドラッグストアがあり立地条件にも恵まれ、車いすの方も一緒に散歩がてら日常的に外出している。個別になつかしい場所やユニット毎に趣向を凝らしたホテル外食にも出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者が立替払いだが、欲しい物、食べたい物があつた時には一緒に買い物に出かけ購入するようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昔からの知人や姉妹の方より手紙が届く事があり、返事を書いている様子が伺える。また、自分で年賀状を作成してもらい家族に送っている。電話も希望があればその都度やりとりしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度の管理を行っている。中庭の花を摘んで施設内に飾ったり、季節に合わせて折り紙や貼り絵・塗り絵を貼りかえるなど工夫している。	併設の小規模多機能、有料老人ホームを自由に行き来し、それぞれの利用者や職員とオープンな関わりを持ち、まるで大きな一つの家族のような関係作りをしている。車いすが移動しやすいようにテーブルの配置や、どこにいても職員が目が届くような配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの座る位置等を工夫して居心地よく過ごせるようにしている。一人で過ごしたい利用者がいればお茶の時間をずらす等の配慮をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトや持ち物は家族と本人に任せている。その他必要な物があれば購入したりしているようだが、極力使い慣れたものを持って来てもらうようにしている。	安全に過ごしてもらうために職員のアドバイスはあるが利用者の希望を取り入れた居室作りをし、早く馴染んでもらえるようにサポートしている。死角、整理整頓、清掃に留意して居心地良く暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備に努め、混乱や邪魔にならないようにしている。重度化しても本人らしい生活が送れるようまた、ケアしやすい環境を整えている。		